

# 東燃ゼネラル石油株式会社 2013年12月期第1四半期決算概要

2013年5月15日

## 取引の記載・見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の事業に関わる計画、見通しについては、本資料作成時における当社の見通しに基づき記載しておりますが、日本および世界経済の動向、原油および製品価格、円ドルの為替レート、需給の変動に大きく左右される業界の競争状況などにより影響を受けます。これらの影響により、実際の業績は本資料で記載した見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。



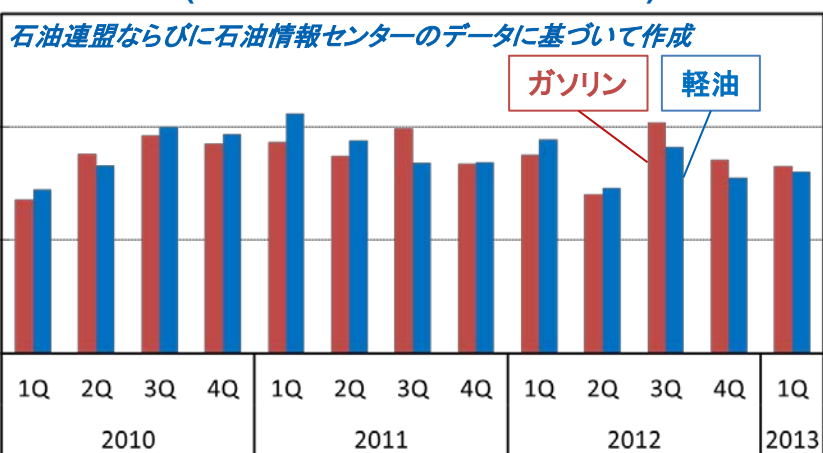
東燃ゼネラル石油株式会社

# 2013年1-3月期のハイライト

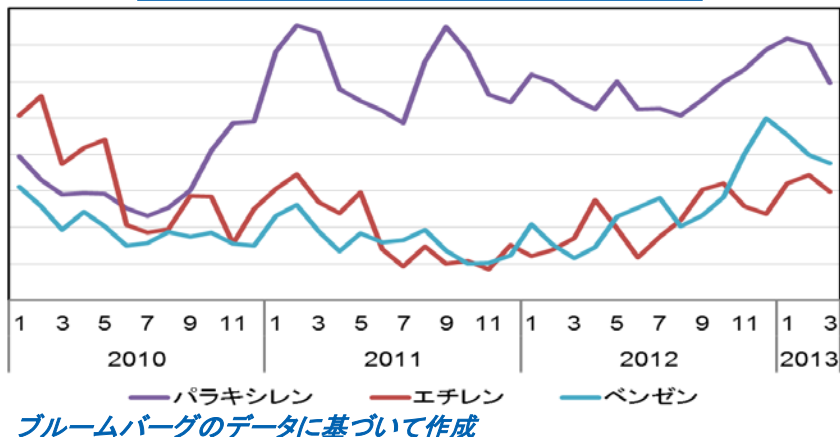
- 営業利益は、2月に発表した業績予想を上回るペースで推移。  
原油・製品価格上昇による在庫評価益を反映し、2013年上期・通期の予想を上方修正
- 安定した操業 – 特筆すべき予定外の操業停止はなし
  - 川崎と和歌山の常圧蒸留装置2基の廃棄は計画通り実施予定
  - 停止中の上記常圧蒸留装置2基を除く設備稼働率は92%
- 白油の輸出マージンが円安により拡大し、輸出数量は前年同期比54%増加
- 統合効果の実現を含む中期経営計画は順調に進捗
  - 統合効果は計画を上回る – コスト削減 14億円、収益拡大 12億円
  - 昭和シェル石油(株)と、精製・供給・流通部門での協業の検討について基本合意
  - 関西電力(株)と、和歌山の遊休地におけるメガソーラー発電計画の共同推進を合意
- 新規シンジケートローン 500億円により借入金の返済期間を長期平準化

# 2013年1-3月期の事業環境

## 国内石油製品マージンの推移 (卸売価格 - 原油CIF、円/リットル)



## 石油化学品の対ナフサ スプレッド



## 石油事業

- 石油製品マージンは堅調だったが、期の後半にかけて低下
  - 期後半の気温要因による影響を含めた需要減のため在庫は増加
- 国内石油製品需要は対前年比6.1%減少
  - ガソリン:4.6%減
  - 灯油:10.4%減、A重油:11.5%減
  - 軽油:0.6%増は復興需要を反映

## 石油化学事業

- 芳香族類マージンは好調
  - ただし、ポリエステル、高純度テレフタル酸の需要減により期末にむけて下落傾向
- エチレンのマージンがほぼ安定していたことにより、オレフィン類のマージンは堅調
  - タイヤ需要の減退はブタジエン価格に影響

# 2013年1-3月期決算概要

- 円安で原油・製品価格が上昇した結果、売上高は前年同期比742億円増
- 営業利益は427億円、前年同期比123億円増
  - 在庫評価益は65億円増加
  - 石油事業は46億円、石油化学事業は55億円、それぞれ増益
  - 上記増益要因は、のれん償却42億円で一部相殺
- 為替差損と金利負担が持分法利益を上回ったことにより営業外損失は12億円
- 特筆すべき特別損益はなく、純利益は252億円

億円	'12 1-3月期	'13 1-3月期	増減
売上高	7,235	<b>7,976</b>	742
<b>営業利益</b>	<b>304</b>	<b>427</b>	<b>123</b>
経常利益	297	<b>415</b>	118
特別損益	164	<b>-1</b>	-165
<b>当期純利益</b>	<b>245</b>	<b>252</b>	<b>7</b>

## (営業利益の内訳)

在庫評価損益	192	<b>257</b>	65
のれん償却	-	<b>-42</b>	-42
調整後営業利益	112	<b>212</b>	100
石油事業	91	<b>136</b>	<b>46</b>
石油化学事業	21	<b>76</b>	<b>55</b>

# 2013年1-3月期営業利益増減の要因分析

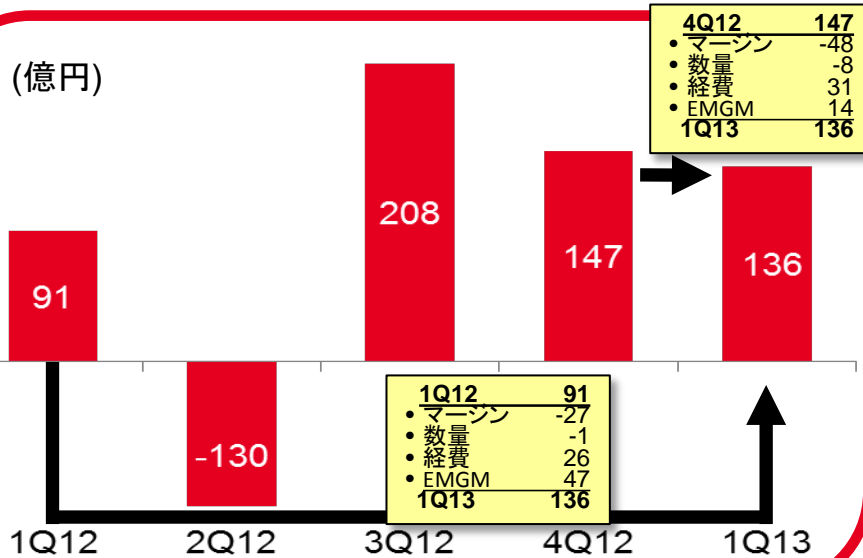
## 石油事業

- 前年1-3月期および10-12月期に比べ、国内マージンは低下したが、EMGマーケティング合同会社(EMGM)の利益、統合効果の実現やその他経費削減で相殺
- 中間留分の輸出マージンは引き続き好調

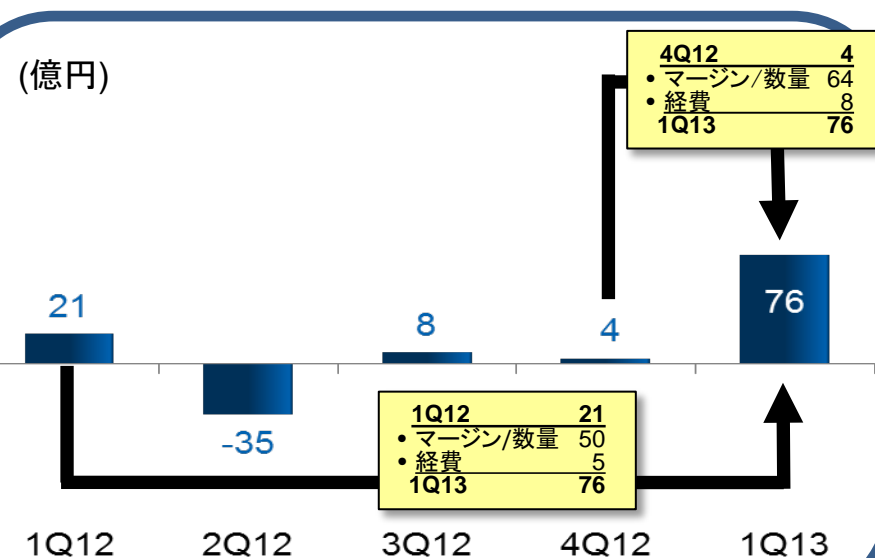
## 石油化学事業

- 前年1-3月期および10-12月期比では、好調な芳香族類、堅調なオレフィン類、および安定している特殊化学品のマージンに支えられ増益

### 調整後営業利益の四半期比較 (2012年1-3月期～2013年1-3月期)



### 石油事業



### 石油化学事業

# 販売数量\*

製品	'12 1-3月期	'13 1-3月期	増減
<b>石油製品 (千KL)</b>			
ガソリン	2,767	<b>2,619</b>	-5.3%
灯油	1,248	<b>1,059</b>	-15.2%
軽油	865	<b>827</b>	-4.5%
A重油	592	<b>436</b>	-26.3%
C重油	510	<b>508</b>	-0.4%
LPG・ジェット・他	829	<b>874</b>	+5.4%
<b>国内販売合計</b>	<b>6,812</b>	<b>6,324</b>	<b>-7.2%</b>
<b>輸出</b>	<b>878</b>	<b>1,355</b>	<b>+54.3%</b>
<b>石油製品</b>	<b>7,690</b>	<b>7,678</b>	<b>-0.2%</b>
<b>石油化学製品 (千トン)</b>			
オレフィン類その他	405	<b>392</b>	-3.2%
芳香族類	167	<b>180</b>	+7.9%
特殊化学品	63	<b>66</b>	+4.5%
<b>石油化学製品</b>	<b>635</b>	<b>638</b>	<b>+0.5%</b>
<b>設備稼働率**</b> (常圧蒸留装置ベース)	<b>76%</b>	<b>92%***</b>	

増減
国内全体
-4.6%
-10.4%
+0.6%
-11.5%
-7.4%

- 国内需要は低迷
- 中間留分は好調なマージンを背景に輸出を最大化
- 経済性の高い二次装置の稼働率を高め、ガソリン輸出を拡大
- 安定操業を継続し、芳香族類と特殊化学品を増産

\* 2012年1-3月期もEMGMを連結していたと仮定した場合の販売数量

\*\* 東燃ゼネラル石油3工場の稼働率

\*\*\* 川崎と和歌山で廃棄予定の常圧蒸留装置2基を除いた稼働率

# 2013年連結業績予想

- 業績予想は下記を除き変更なし
  - 製品の円建て価格上昇による売上高増(+1,000億円)
  - 4月の原油・製品価格と為替の動向を踏まえ、在庫益200億円を追加
- 1株当たり38円の配当予想は変更なし

(億円)	'13 1-3月 実績	業績予想(今回発表) <sup>*</sup>		2月発表比増減	
		1-6月期	13通期	1-6月期	13通期
売上高	7,976	15,000	31,000	-	1,000
営業利益	427	410	630	200	200
経常利益	415	390	610	180	190
特別損益	-1	0	0	-	-
純利益	252	220	330	120	130

## (営業利益の内訳)

在庫評価損益	257	200	200	200	200
のれん償却	-42	-85	-170	-	-
調整後営業利益	212	295	600	-	-
石油事業	136	245	500	-	-
石油化学事業	76	50	100	-	-

\* 2013年4月のドバイ原油価格(102ドル/バレル)および為替レート(98円/ドル)が2013年末まで継続するとの前提にて算出

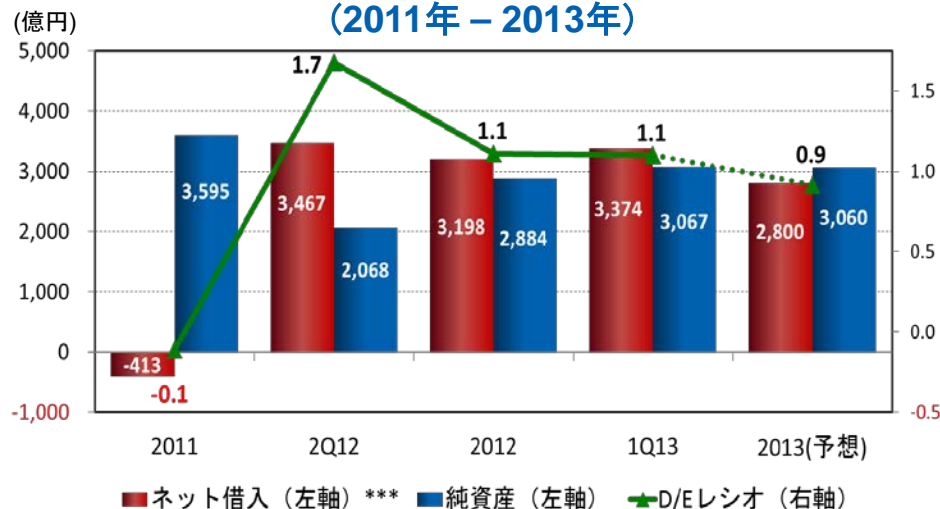
# キャッシュ・フロー、D/Eレシオ

- 2013年1-3月期末のD/Eレシオは2012年末と同水準
  - 主に在庫の増加によりキャッシュ・フローはマイナスに
- 下期にかけて借入金削減とD/Eレシオ改善を見込む
  - 1-3月期で借入金が176億円増加したものの、年末D/Eレシオは0.9に改善する見込
- 現在の良好な資金調達環境を活用し、借入金の返済期間や固定・変動金利の構成を最適化
- 純資産の増加は格付けに寄与

## '13 1-3月期 キャッシュフロー(億円)

	'13 1-3月期
<b>フリー・キャッシュ・フロー*</b>	<b>-110</b>
税引き前純利益	414
減価償却費/(固定資産の取得)**	76
在庫(増加)/減少	-603
その他	3
<b>配当金の支払い</b>	<b>-66</b>
<b>ネット借入金の増加/(減少)***</b>	<b>176</b>

## 期末のネット借入、純資産およびD/Eレシオ (2011年 - 2013年)



\* 営業活動および投資活動によるキャッシュ・フローの合計  
 \*\* のれん償却を含む  
 \*\*\* 借入金から現金および現金等価物を差し引いて算出



---

# 補足資料

# 販売数量

□ 売上高に相当する販売数量(従来の東燃ゼネラルに2013年1-3月期のEMGM取得の影響を加算)

製品	'12 1-3月期*	'13 1-3月期*	増減	増減 国内全体	EMGM 取得影響**	新ベース '13 1-3月
<b>石油製品(千KL)</b>						
ガソリン	2,459	<b>2,441</b>	-0.7%	-4.6%	179	<b>2,619</b>
灯油	1,083	<b>975</b>	-9.9%	-10.4%	84	<b>1,059</b>
軽油	740	<b>711</b>	-3.9%	+0.6%	116	<b>827</b>
A重油	524	<b>403</b>	-23.1%	-11.5%	33	<b>436</b>
C重油	417	<b>429</b>	+3.1%	-7.4%	79	<b>508</b>
LPG・ジェット燃料・他	720	<b>740</b>	+2.9%		134	<b>874</b>
<b>国内販売合計</b>	<b>5,941</b>	<b>5,700</b>	<b>-4.1%</b>		<b>624</b>	<b>6,324</b>
<b>輸出</b>	<b>788</b>	<b>1,263</b>	<b>+60.3%</b>		<b>91</b>	<b>1,355</b>
<b>石油製品</b>	<b>6,729</b>	<b>6,963</b>	<b>+3.5%</b>		<b>715</b>	<b>7,678</b>
<b>石油化学品(千トン)</b>						
オレフィン類その他	405	<b>392</b>	-3.2%		-	<b>392</b>
芳香族類	167	<b>180</b>	+7.9%		-	<b>180</b>
特殊化学品	50	<b>48</b>	-3.7%		18	<b>66</b>
<b>石油化学製品</b>	<b>622</b>	<b>620</b>	<b>-0.3%</b>		<b>18</b>	<b>638</b>
<b>設備稼働率</b>	<b>76%</b>	<b>92%***</b>	<b>-</b>			

\* EMGM取得前の当社ベース

\*\* EMGM取得により増加した2013年1-3月期の数量

\*\*\* 川崎と和歌山で廃棄予定の常圧蒸留装置2基を除いた稼働率

# 2013年連結業績予想の前提と感応度

## □ 今回の業績予想の前提

主な項目	単位	前提	注記
ドバイ原油価格(FOB)	米ドル/バレル	102	2013年4月平均
為替レート	円/米ドル	98	2013年4月平均

上記前提は、売上高および在庫評価損益の計算に使用

## □ 前提の変化に伴う利益への影響額(年間換算)

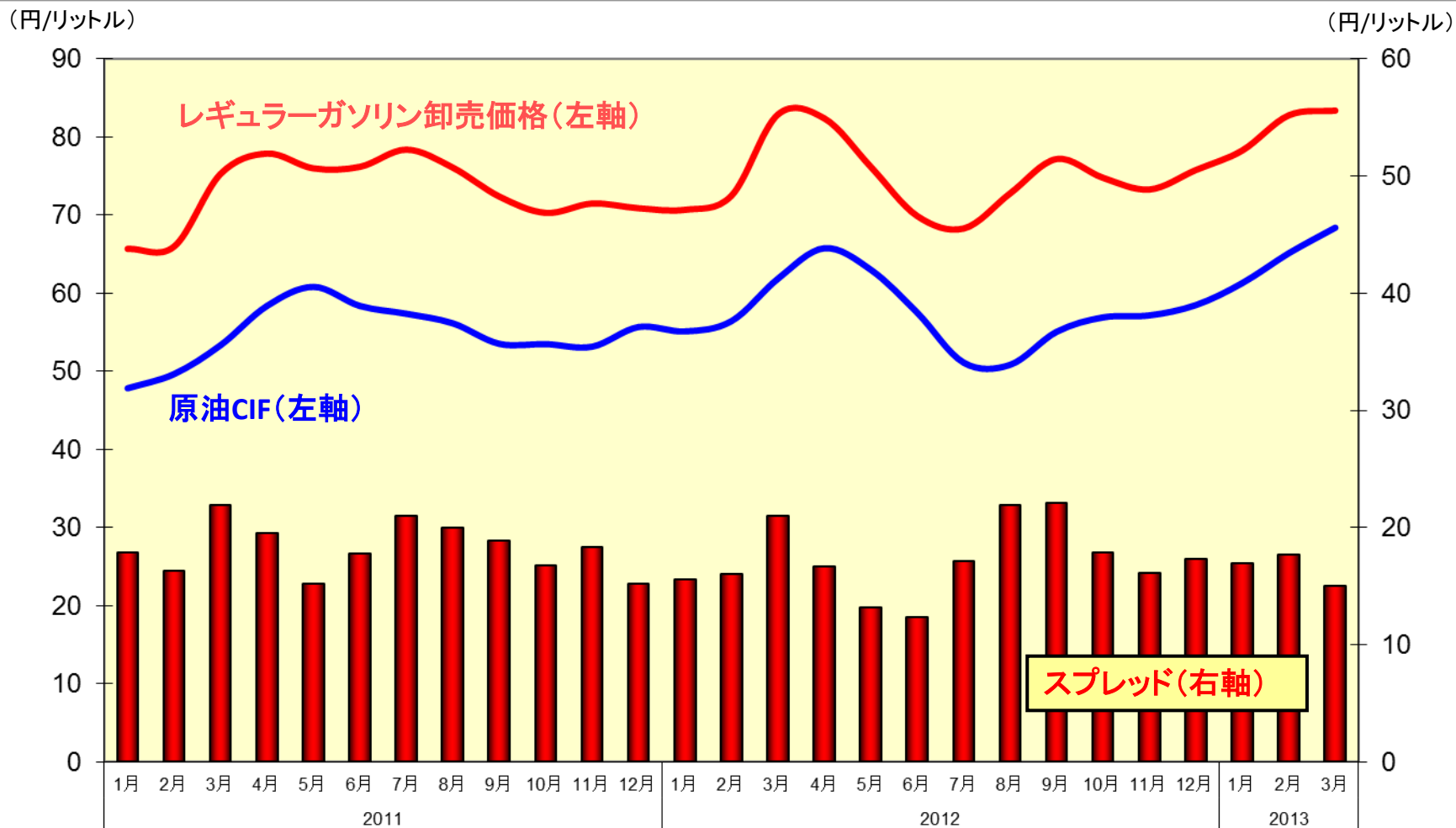
主な項目	単位	上昇幅	年間換算影響額(億円) 営業利益 / 経常利益*1
ドバイ原油価格(FOB)	米ドル/バレル	10	220 / 230*2
為替レート	円/米ドル	10	- 230 / -240*2
石油精製マージン	円/リットル	1	320*3

\*1 営業外損益に含まれる極東石油工業の持分法損益(50%持分税引後)を含む

\*2 在庫評価損益の影響のみ。原油価格変動のタイミングや在庫数量によっては異なる結果となりうる

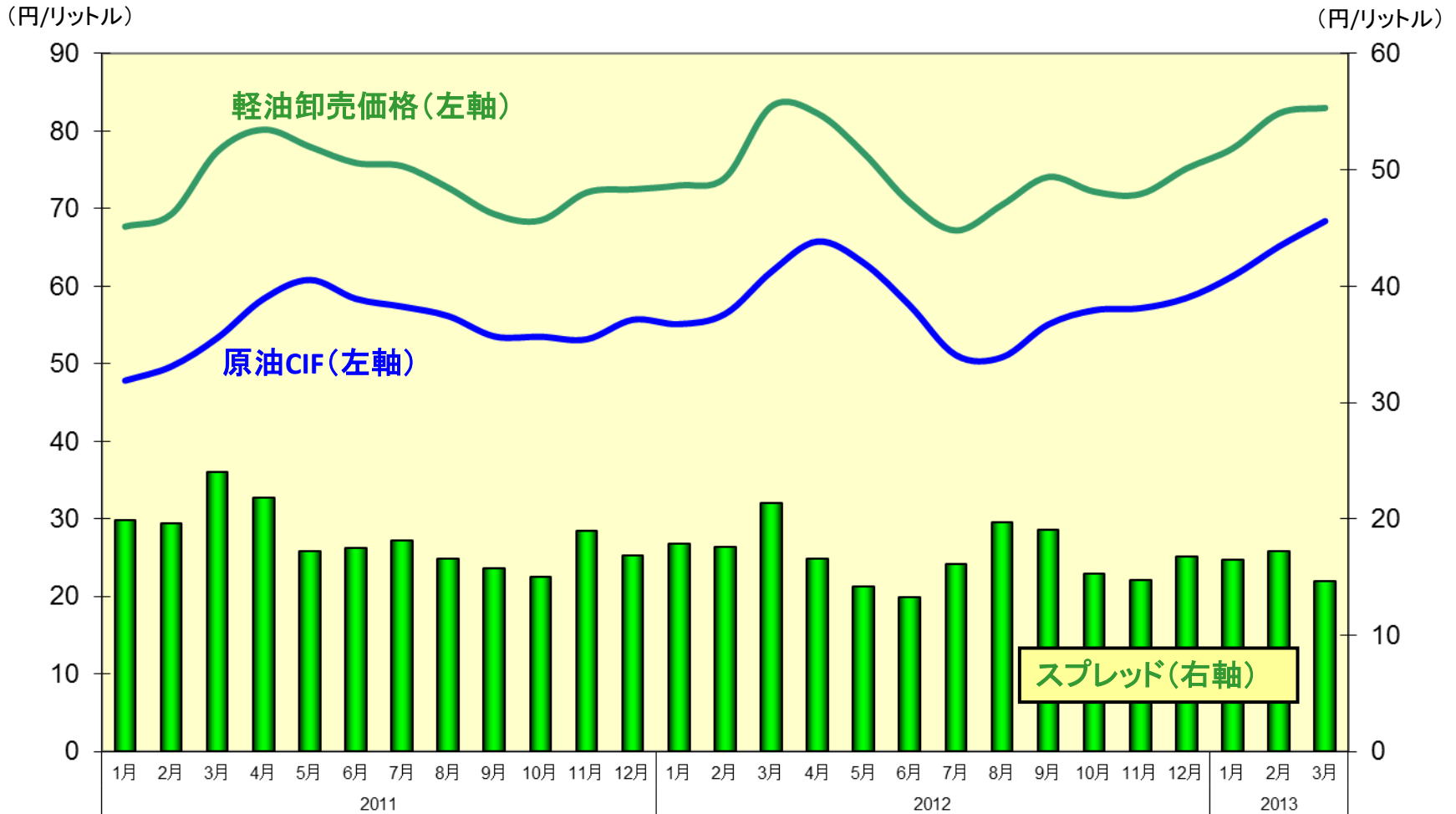
\*3 営業利益への年間影響額は10億円単位の概算であり、販売数量の増減によっては異なる結果となりうる

# 価格スプレッド (ガソリン卸売価格－原油CIF)



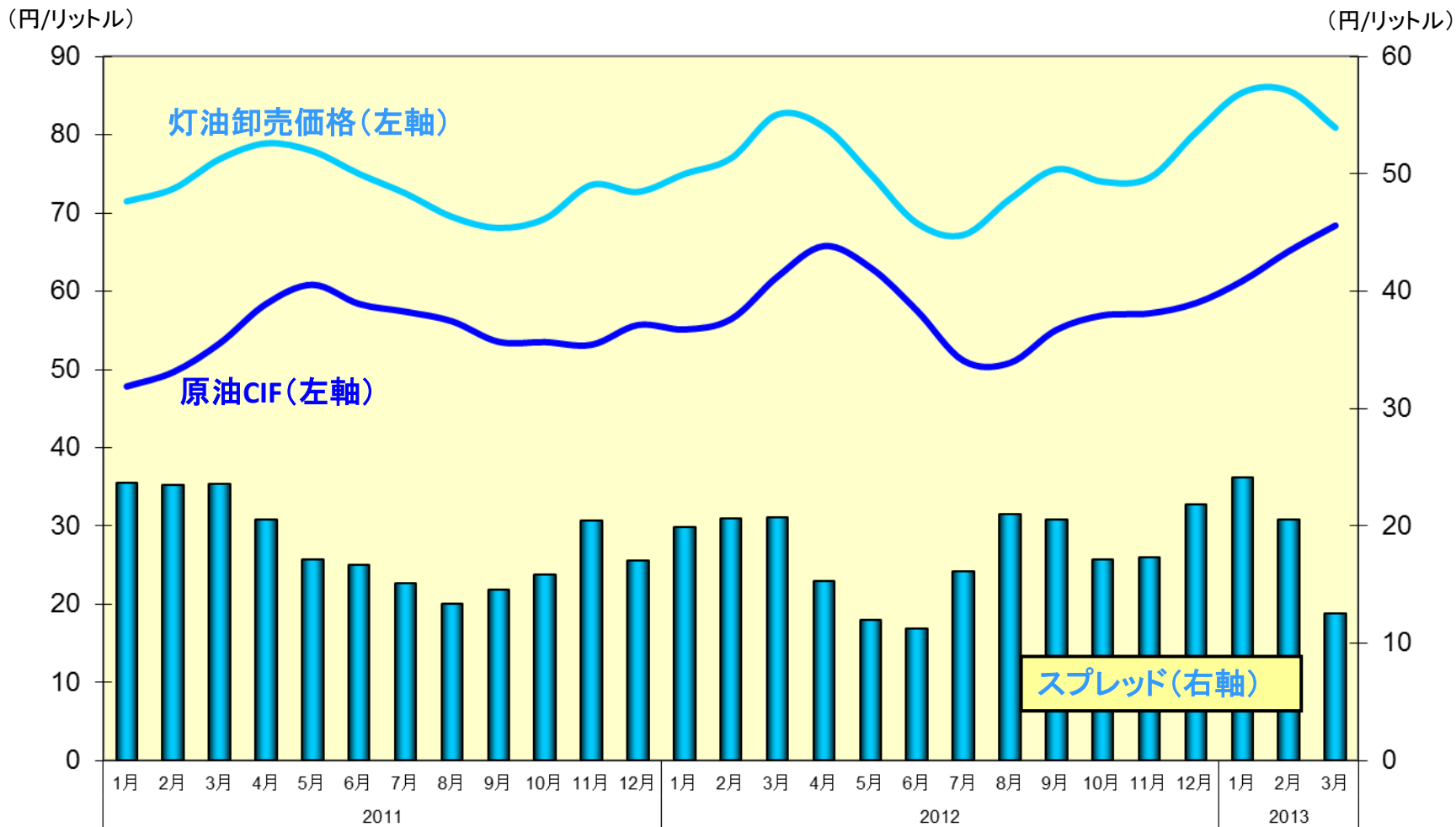
注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 価格スプレッド（軽油卸売価格－原油CIF）



注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 価格スプレッド（灯油卸売価格－原油CIF）



注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 営業利益内訳 (2011年 – 2013年1-3月期)

2013年

(単位: 億円)

営業利益内訳	'13 1-3月期	'13 4-6月期	'13 7-9月期	'13 10-12月期	'13 通期	'13 1-6月期	'13 1-9月期
石油部門 (実質)	136						
石油化学部門 (実質)	76						
在庫関連損益	257						
のれん償却	-42						
総合計	427						

2012年

(単位: 億円)

営業利益内訳	'12 1-3月期	'12 4-6月期	'12 7-9月期	'12 10-12月期	'12 通期	'12 1-6月期	'12 1-9月期
石油部門 (実質)	91	-130	208	147	315	-40	168
石油化学部門 (実質)	21	-35	8	4	-1	-14	-6
在庫関連損益	192	-283	40	95	44	-91	-51
のれん償却			-42	-42	-85		-42
総合計	304	-448	213	204	273	-144	69

2011年

(単位: 億円)

営業利益内訳	'11 1-3月期	'11 4-6月期	'11 7-9月期	'11 10-12月期	'11 通期	'11 1-6月期	'11 1-9月期
石油部門 (実質)	107	-18	87	64	241	89	177
石油化学部門 (実質)	72	5	-24	-23	30	77	53
在庫関連損益	1,732	280	-122	1	1,891	2,012	1,890
総合計	1,911	267	-59	42	2,162	2,178	2,120